



高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」実践活動報告書

学校番号	040	学校名	愛知県立犬山高等学校	全日制課程
校長名	石田 亘		記載者氏名	小野木 聖

取組のテーマ	
「防災」について学ぼう～地域と連携したいのちを守る教育～	
具体的な取組	
①企画性	生徒に「防災」を身近なものに感じてもらうために、興味関心をひく講義や体験をすることにより、自らのいのちを守ること・他者のいのちを救うことの両面の意識の向上を目指した。
②主体性	生徒が主体的に考えられるように講義や学校祭企画を計画した。学校祭では防災教育セミナーの担当生徒主導のもと、防災グッズの作成や全生徒へ向けての防災知識の普及など行った。
③対象	全校生徒及び教員
④連携	名古屋経済大学、犬山市役所、KARAKURI 事業部、灯 LINK、合同会社サンブリュー
⑤内容	<p>R4.4 避難訓練</p> <p>地震発生後、教室からグラウンドに避難するという地震を想定した避難訓練を実施した。避難経路をあらかじめ確認し、スムーズに避難することができた。その後学年別に以下の活動を体験した。</p> <p>一年：消火活動体験 二年：煙道体験 三年：放水体験</p>  <p>R5.6 防災教育（講義「防災ってなに？」）</p> <p>まずは生徒に興味関心を持ってもらうため、Q&A方式で体育館にて全体講義を行った。防災ってなに？から始まり、自然災害の種類や被害を抑えるための方策、防災セットには何が必要かを生徒に発問し考えさせた。生徒は班のメンバーと相談しながらメモを取り、主体的に防災について学ぶことができた。</p> 

R5.7 名古屋経済大学の教授によるハザードマップ体験

名古屋経済大学の村山教授の講義により、GISの仕組みやハザードマップについて学習した。生徒が所有するスマートフォンを活用し、自分が居住する地域のハザードマップを検索した。またハザードマップに描かれた地域のリスクに、どういった情報を追加して重ね合わせれば、より分かりやすくなるかについて生徒が考察した。スマートフォンを活用して自分の居住する地域を班のメンバーと協力しながら、検索することで「防災」をより身近に感じる機会となった。



R5.9 学校祭（防災グッズの展示、防災知識の普及、竹明かり、防災スイーツの販売）

今年度の学校祭では防災に関する以下の4点に取り組んだ。

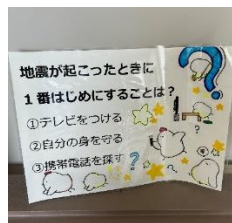
- ①防災グッズの展示
- ②防災知識の普及
- ③竹明かりづくり体験
- ④防災スイーツの販売

①は各クラスから4人選出し、防災スリッパ・紙皿・簡易トイレの3つを作成し、展示した。被災時で物資が十分でない場合でも、手軽に作成できることを生徒は新たに知ることができた。

②は犬山市役所協力のもと、被災時の対応の仕方を学習した。具体的にはマンホールトイレや発電機の活用方法や液体の凝固実験、クイズやアンケート、非常食の配付を防災教育セミナーの担当生徒が実践した。

③はKARAKURI事業部、灯LINK協力のもと竹明かりづくり体験を行った。竹をくり抜き、内部からLEDライトで照らす方法で作成した。体験して興味関心を高める、廃材を活用するという観点で今回実施してみたが、生徒は楽しそうに作成することができた。

④は合同会社サンブリュー協力のもと、被災時でも簡単に作れる防災クッキーやスイーツを販売した。被災時にスイーツを食べることで少しでも安らぎを感じてもらいたい狙いもある。



R5.9 防災教育（講義「震災学習」）

幼少期に阪神淡路大震災の被災者となった本校教員による講話を行った。該当教員は当時幼稚園児であったが、祖父が残した日記を交えながらの当時の様子を紹介した。ライフラインに関して、電気は3～6日程度、ガス・水道は1～2か月程度復旧に時間を要した。その間、人々は給水車や配給、他県に赴くなどして生活したようである。以上のような話を、具体的かつ分かりやすく生徒に伝えた。生徒はメモを取りながら真剣に話を聞いていた。



R5.10 修学旅行（人と防災未来センター）

阪神淡路大震災記念人と防災未来センターの見学をした。「震災の記憶フロア」では震災の記憶を残すコーナー、震災からの復旧をたどるコーナーに展示された当時の記録を見学した。また大型映像、ジオラマ模型、ドラマなどで震災当時の状況をより身近に感じることができた。



R5.11 防災新聞の作成

2年間で学んできたことを新聞という形でまとめ、校内や犬山市内の公共施設に掲示した。いざという時に適切に行動できるよう生徒は班員と話し合っってまとめることができた。



⑥その他	特になし
効果と課題	
<p>【効果】 講話や体験学習など様々な形の防災教育を行ったことにより、生徒は幅広い学びができたと感じている。特に防災教育セミナーの担当生徒は学んだことや実践したことを校内だけではなく、校外にも発信することができた。学校祭時の防災知識の普及など教師主導の活動以上に、生徒主体の活動がより効果的に感じた。</p>	
<p>【課題】 第2学年を中心に防災教育を行ったため、第2学年の生徒は防災意識が高まったように感じる。しかし第1・3学年の生徒には防災意識があまり浸透しなかったように感じた。また教師主導で行った活動を、もっと生徒主体の活動で行った方が効果的であるように感じた。</p>	